

# スピリチュアル物語

## 75話 by 魔女ともえ

この『スピリチュアル物語』は、BRIDGE USAさんよりお引越しました

### 魔女ともえ

ミステリースクールよりイニシエーションを受けた全米初の日本人魔女。チャネリング、白魔術、過去世リーディング、オーラ診断、浄化などを通じて、人々の幸せをサポート。ヘリと小型機のパイロット免許を持つユニーク魔女。

トランスマリ奥特内スターボックス(要予約):1時間 \$60

メール相談:(要予約):majyotomoe@gmail.com \$16/1件(Paypal・Zelle)



「抜け出した意識で自分を客観的にアナウンスする？具体的にはどうやるんだい？」理解が追いつかないウイザットが質問する。「客観的なアナウンス、というのは第三者的な視点に立ち表現することじゃ。例えば、休日をどう過すかで悩んでいる時に…」マグワートが言い終わらない内に「僕なら馬に乗って山に行くな。山の空気は清々しいからねえ」ウイザットが言葉を挟むと、「あら、海に行けば、波の音に癒されるわ」マジョリアルが応戦する。「外出は疲れるから、ワシなら家のパティオでゆっくり読書をして過

したいのう」マグワートも二人の論争に一旦加わってみせ、更に続けた。「今の会話を、このワシがメタ認知するとどうなるかと言えば、『休日をどう過すかについて、ウイザットは山と言い、お嬢さんは海と言い、そしてマグワートは読書と言った』という感じになるんじゃないや。つまり、ワシは」と言う代わりに、マグワートは、「という三人称を使って、第三者的に表現した訳じゃ」「う、う、うん」その言葉にマジョリアルが頭を抱えた。「え？どうしたんだい？お嬢さん！」慌てるウイザット。「私は…自分が誰なのか、名前さえ

思い出せないのよ…だから、第三者的に「何々は」とは言えないわ…名前さえ思い出せないなんて…」マジョリアルの苦悩に為す術のないウイザットを見かね、「そうか、じゃあお嬢さんに仮の名前を付ける、という案はどうかな？」マグワートが提案した。



★これまでのお話(1~74話)は魔女ともえのwebで読むことができます。

[www.majotomoe.com](http://www.majotomoe.com) 12月21日号につづく